

施策体系シート(行政経営Bシート)

作成者	組織	文化振興課	職	課長	氏名	橋本 定則
評価者	組織	文化振興課	職	課長	氏名	池田 誠

施策	施策の目標	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		評価
					(年度)	(年度)	
施策1	兼六園周辺文化の森活性化の推進	兼六園周辺文化施設入館者数	人	674,000 (H24)	642,716 (H23)	673,840 (H24)	A
施策2	個性的な文化創造社会の形成	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数	人	13,000 (H24)	13,081 (H23)	12,679 (H24)	B
施策3	音楽文化の創造・発信・交流の促進	音楽堂入場者数	人	248,000 (H24)	238,543 (H23)	265,158 (H24)	A
施策4	伝統文化の継承、発展と文化芸術に親しむ機会の充実	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数	人	109,000 (H24)	102,617 (H23)	108,960 (H24)	A

施策	施策の目標達成に向けて重点的に取り組むべき課題							課題に対する主な取り組み				評価					
	課題	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		事務事業	対象	予算 (千円)	決算 (千円)	これまでの 有効性	今後の 方向性					
施策1	課題 兼六園周辺文化施設の活性化	再 兼六園周辺文化施設入館者数	人	674,000 (H24)	642,716 (H23)	673,840 (H24)	兼六園周辺文化施設活性化事業費	一般県民	9,500	9,500	A	見直し					
							前田育徳会尊経閣文庫分館魅力発信事業費	一般県民	800	749	A	継続					
							美術館展覧会費(企画展示費)	一般県民	20,189	20,189	A	拡大					
							歴史博物館資料展示費(特別展示費)	一般県民	6,057	6,054	B	見直し					
							石川四高記念文化交流館事業費	一般県民	15,754	15,551	A	継続					
施策2	課題 表現・鑑賞機会の充実	再 芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数	人	13,000 (H24)	13,081 (H23)	12,679 (H24)	芸術鑑賞推進事業費負担金	小・中学生	4,231	4,187	B	継続					
							再 兼六園周辺文化施設活性化事業費	一般県民	9,500	9,500	A	見直し					
							いしかわの能楽鑑賞事業費	一般県民	3,500	3,500	B	継続					
							ピエンナーレいしかわ秋の芸術祭参加団体数	団体	45 (H25)	44 (H23)	45 (H24)	ピエンナーレいしかわ秋の芸術祭開催費	一般県民	2,300	2,300	B	継続
施策3	課題1 音楽文化の創造・発信	再 音楽堂入場者数	人	248,000 (H24)	238,543 (H23)	265,158 (H24)	音楽堂自主事業費補助金	一般県民	17,817	17,817	A	継続					
							地域文化振興推進事業費補助金	一般県民	10,700	10,700	A	継続					
							再 ピエンナーレいしかわ秋の芸術祭開催費	一般県民	2,300	2,300	B	継続					
							ラ・フォル・ジュルネ金沢音楽祭来場者数	人	110,000 (H24)	118,355 (H23)	104,771 (H24)	ラ・フォル・ジュルネ金沢開催費	一般県民	13,000	17,976	B	継続
							いしかわミュージックアカデミー参加者数	人	4,700 (H24)	4,598 (H23)	4,984 (H24)	いしかわミュージックアカデミー開催事業費	国内外在住音楽家、一般県民	14,420	14,420	A	継続
施策4	課題2 音楽文化を担う人材の育成	再 音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数	人	109,000 (H24)	102,617 (H23)	108,960 (H24)	再 いしかわの能楽鑑賞事業費	一般県民	3,500	3,500	B	継続					
							再 ピエンナーレいしかわ秋の芸術祭開催費	一般県民	2,300	2,300	B	継続					
							再 兼六園周辺文化施設活性化事業費	一般県民	9,500	9,500	A	見直し					
							再 ラ・フォル・ジュルネ金沢開催費	一般県民	13,000	17,976	B	継続					
							再 芸術鑑賞推進事業費負担金	小・中学生	4,231	4,187	B	継続					

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 兼六園周辺文化施設活性化事業費	事業開始年度: H17	事業終了予定年度:
	根拠法令	
	・計画等	

作 組 織:	文化振興課
成 職・氏名:	専門員 今村 友紀枝
者 電話番号:	076 - 225 - 1371 内線 3853

事業の背景・目的
 兼六園周辺文化の森の賑わいを創出するため、各文化施設、関係機関等との連携により、活性化推進事業を実施する。

- 事業の概要**
- 1 兼六園周辺文化の森ミュージアムウィークの開催(10月1日～8日)
 各文化施設が連携し文化芸術イベントや協賛行事を開催
 (各文化施設、本多の森公園)
 - 2 文化の森スタンプラリーの開催
 県及び金沢市の文化施設を対象
 - 3 金沢芸妓の舞の実施
 文化施設鑑賞パスポート付き:能楽堂別館
 - 4 文化の森マップ、イベントガイドの発行
 年2回作成

以上、交付先:兼六園周辺文化の森活性化推進実行委員会

- 5 能楽堂40周年記念事業の実施
 40周年記念能(10月)
 1日能楽サロン(9月)
 - 6 「冬の観能の夕べ」の開催(2月、能楽堂)
 若手能楽師による能楽公演の実施
- 以上、交付先:いしかわの能楽鑑賞事業実行委員会
- 7 兼六園周辺文化施設の利用促進に向けたPR展開
 ミュージアムウィーク実施に合わせて県・金沢市文化施設共通パスポートを発行

これまでの見直し状況

施策・課題の状況						
施策	兼六園周辺文化の森活性化の推進				評価:	A
課題	兼六園周辺文化施設の活性化					
	指標	兼六園周辺文化施設入館者数			単位:	人
	目標値	現状値				
	平成24年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	674,000	608,270	757,255	671,194	642,716	673,840

事業費					
(単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
事業費 予算	9,300	7,800	7,400	8,000	9,500
一般 決算	9,300	7,800	7,400	5,432	9,500
財源 予算	9,300	7,800	7,400	8,000	9,500
財源 決算	9,300	7,800	7,400	5,432	9,500
事業費累計	34,800	42,600	50,000	55,432	64,932

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	昨年度に比べ開催日が1日少なかったにも関わらず、3連休が含まれたことや、新規事業による集客効果もあり、ミュージアムウィーク来場者数は前年度比29%増となった。各施設主催の展示等に加え、当事業によりミュージアムウィークなどのイベントを開催することにより、文化の森の賑わい創出や各館への集客に有効であった。 ミュージアムウィーク来場者数 72,262人 (前年比29%増)
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	見直し	各館の年間入館者数は、東日本大震災などの影響により減少した平成23年度以前の水準に戻りつつあるものの、依然低迷している状況であり、交流人口拡大のため、ミュージアムウィーク等既存の事業の実施に加え、兼六園や金沢城公園等の大型イベントと連携して四季を通じて伝統文化にふれて頂くイベントを文化施設で開催することにより更なる魅力アップを図り、一層の賑わいを創出していく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	前田育徳会尊経閣文庫分館魅力発信事業	事業開始年度	H21	事業終了予定年度	-	作 組 織	県立美術館
		根拠法令 ・計画等				成 職・氏名	主幹 七野啓一
						者 電話番号	076 - 231 - 7580 内線 6510

事業の背景・目的
美術館リニューアルオープンに併せ「尊経閣文庫分館」が開設されたことを受け、前田育徳会尊経閣文庫の所蔵品のすばらしさを県民に紹介するためのPR事業を積極的に展開し、「尊経閣文庫分館」の周知と観覧者増を図る。

事業の概要

1 文化講座の開催

前田育徳会尊経閣文庫の所蔵品収集に力を注いだ加賀藩歴代藩主の姿を、前田家に関わる人及び他の大名家との比較を通して、深めていく連続講座として開催する。

開催回数 年3回

講座概要

第1講 前田利長・利常と前田氏庶子の命運(H24. 7. 1)受講者152人

第2講 職人歌合の世界(H24. 9. 16)受講者80人

第3講 石垣の伝統技術を探る(H24. 10. 14)受講者176人

会 場 石川県立美術館ホール

対 象 者 一 般

定 員 各回200人

2 尊経閣文庫のパンフレット作成

前田育徳会尊経閣文庫の文化財等所蔵品のすばらしさを県民に紹介するため、PR用パンフレットを作成する。

施策・課題の状況							
施策	兼六園周辺文化の森活性化の推進					評価	A
課題	兼六園周辺文化施設の活性化						
指標	兼六園周辺文化施設入館者数					単位	人
目標値	現状値						
平成24年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度		
674,000	608,270	757,255	671,104	642,716	673,840		
事業費							
(単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度		
事業費	予算	2,500	1,500	1,000	800		
	決算	2,244	1,006	950	749		
一般	予算	2,500	1,500	1,000	800		
財源	決算	2,244	1,006	950	749		
事業費累計		2,500	4,000	5,000	5,800		
評価							
項目	評価	左記の評価の理由					
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	前田育徳会や尊経閣文庫の優れた文化財などを県民に知ってもらう講座の開催及びPR用のパンフレットを作成し、公民館や大学等教育機関にも幅広く配布することにより美術館の魅力アップに貢献した。年3回の講座の受講者数は延べ408人と前年の受講者数を80人余り上回る結果となった。					
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	尊経閣文庫分館の魅力を高めることは美術館の集客アップにも繋がることから、今後も加賀藩の歴史と豊かな文化を伝える講座の開催やPR活動の充実に努めることにより、尊経閣文庫分館を鑑賞する機会を広げていく。					

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 歴史博物館資料展示費(特別展費)	事業開始年度	S 62	事業終了予定年度	
	根拠法令 ・計画等			

作 組 織	歴史博物館
成 職・氏名	総務課主幹 西村 学
者 電話番号	076 - 262 - 3236 内線 6511

事業の背景・目的
 通常展とは別に独自のテーマにスポットをあて、考古・歴史・民俗等の貴重な資料を基に特別企画による展示を行い県民等が歴史に親しみ、さらに認識を深める一助となるよう郷土の歴史の展示公開を通して歴史の一端を紹介する。

事業の概要
 ①春季特別展
 展覧会名 「れきはく特選資料展」
 開催期間 4月21日(土)～6月3日(日) 44日間
 当館では、現在に至るまで、17万点余の資料を収集してきたが、建物自体を含めて国指定文化財3件、県指定文化財19件、点数を数えれば3,000点を超える貴重な資料を有している。
 リニューアル工事を控え、県民に広く、指定文化財を一挙に公開するものとする。

②夏季特別展
 展覧会名 「マンダラ」
 開催期間 7月14日(土)～9月2日(日) 51日間
 紀元前5世紀頃にインドで誕生した仏教が時代を経て波及する中、アジア各地でさまざまな仏教文化が興りました。マンダラは、仏門に入る儀式や悟りを求めて行う修行で使われるもので、彫像や絵画によって立体的、視覚的に表現されたものである。今回、国立民族学博物館の所蔵品を中心に、神像や仏画、絵画等を展示し、不思議な魅力と文化を知ってもらうことを目的とする。

*リニューアル整備のため平成24年度は秋季展を行わない。

これまでの見直し状況
 毎年新たなテーマを企画設定して事業を実施

施策・課題の状況						
施策	兼六園周辺文化の森活性化の推進	評価	A			
課題	兼六園周辺文化施設の活性化					
	指標	兼六園周辺文化施設入館者数	単位	人		
	目標値	現状値				
	平成24年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	674,000	608,270	757,255	671,104	642,716	673,840

事業費						
(単位:千円)		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
事業費	予算	11,383	18,465	14,393	5,568	6,057
	決算	9,701	16,432	16,353	5,011	6,054
一般財源	予算	5,062	3,256	7,316	1,569	2,527
	決算	5,458	1,191	11,278	1,356	2,524
事業費累計		151,457	167,889	184,242	189,253	195,307

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	見直し

左記の評価の理由

常設展示の固定化を補う意味で、独自のテーマにスポットをあてる特別展の開催により、新規の顧客を開拓するとともに、歴史に親しむ県民等にも、さらに認識を深める機会の一助となった。テーマはリニューアル工事を控え、指定文化財を公開した「れきはく特選資料展」と、県民が楽しみながら、歴史資料の展示を鑑賞できる「マンダラ展」の2展を開催した。特別展開催期間中は、それ以外の期間に比べても、来館者数の増加に寄与している。
 (1日あたり来館者数(H24) ①特別展期間中:197人/日 ②それ以外の期間中:163人/日)

H25年3月からリニューアル工事のため閉館するにあたり、H25年度は小松、七尾、金沢にて「移動展」を行うことにより、県民が郷土の歴史や伝統に関心を高められるとともに、リニューアルのプレ企画展と位置づけ、当館のPRに努める。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 石川四高記念文化交流館事業費	事業開始年度: H20	事業終了予定年度:	作 組 織: 石川四高記念文化交流館
	根拠法令		成 職・氏名: 課長 吉田 裕之
	・計画等		者 電話番号: 076 - 262 - 5464

事業の背景・目的

石川四高記念文化交流館は、四高の歴史と伝統を伝える展示に加え、旧四高の教室を多目的に利用できる「石川四高記念館」と石川県ゆかりの文学者の資料を展示する「石川近代文学館」によって構成され、兼六園周辺文化の森の新しい「学びとふれあいの複合文化スペース」として平成20年4月に開館した。これらの施設を多くの方々に利用していただくため、企画展示やイベント等を実施する。

事業の概要

1 石川四高記念館

- ・施設の概要
 - 四高と四高生を育んだ風土と時代を知るための展示
 - 旧四高教室を学習や発表の場として利用できる多目的利用室(有料)の設置
- ・主な事業
 - 常設展示(4室)
 - 企画展の実施
 - レトロ展映画ポスター (4月～3月)
 - 小中学校絵画展
 - 三文豪館とのスタンプラリー
 - 講座の開催(フレッシュ新三々塾 年8回) など

2 石川近代文学館

- ・施設の概要
 - 石川県ゆかりの文学者の著書・原稿・愛蔵品等を一堂に集めた総合文学館(財団法人石川近代文学館へ事業を委託)
- ・主な事業
 - 常設展示(8室)
 - 企画展の実施
 - 「痛みと輝き 青春の文学展」 (4/21～8/19)
 - 青春の喜びや苦悩を描いた作品を紹介する。併せてH16より隔年で開催している「広津里香記念高校生による創作詩」の募集も実施。
 - 「泉鏡花という名の幻想(ファンタジー)展」 (9/15～12/16)
 - 泉鏡花の幻想的名作品の紹介や鏡花をモチーフとした作品を紹介する。
 - めしませ・いしかわー作家の眼からみたふるさとー (1/12～3/24)
 - ふるさと・石川を題材とした作品を文学というジャンルだけでなく、絵や版画、映画、漫画の世界
 - ワークショップ、イベント(朗読会、文学講座、研究会など)の実施

施策・課題の状況						
施策	兼六園周辺文化の森活性化の推進	評価	A			
課題	兼六園周辺文化施設の活性化					
	指標	兼六園周辺文化施設入館者数	単位	人		
	目標値	現状値				
	平成24年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	674,000	608,270	757,255	671,104	642,716	673,840

事業費						
	(単位: 千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
事業費	予算	25,373	15,742	15,476	15,322	15,754
	決算	21,190	15,571	14,946	14,640	15,551
一般	予算	20,109	12,694	12,852	12,354	12,354
財源	決算	18,638	13,509	12,408	12,353	12,762
事業費累計		21,190	36,761	51,707	66,347	81,898

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	石川四高記念館においては、レトロ展などの企画展を実施した。多目的利用室においては大学のサテライト教室や文学講座に利用されているほか、四高出身者等による講座「フレッシュ新三々塾」や朗読会などを行い、金沢中心部の賑わい創出に貢献した。 【入館者実績】 H23: 132, 656人 H24: 134, 002人
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	旧制第四高等学校及び文学に関する資料の展示、文化活動の機会の提供は、県民文化の向上には、重要である。又、多数の方に利用していただくことは、街中の活性化にもつながることから、引き続き各種事業を行っていくこととする。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 芸術鑑賞推進事業費負担金	事業開始年度	S57	事業終了予定年度		作 組 織	文化振興課	
	根拠法令				成 職・氏名	主任主事 佐成 美穂	
	・計画等				者 電話番号	076 - 225 - 1372 内線 3847	

事業の背景・目的

子供たちに優れた舞台芸術鑑賞の機会を提供し芸術文化の振興を図るとともに、舞台芸術鑑賞能力の向上と豊かな情操の涵養に資する。

事業の概要

県内市町で下記の事業を実施する。

- 1 児童・生徒オーケストラ鑑賞教室
(財)石川県音楽文化振興事業団(OEK)に委託 県内で5公演を実施
- 2 スクールシアター(児童演劇公演)
(社)日本児童演劇協会に委託 県内で8公演を実施
- 3 古典芸能鑑賞教室
「越後獅子」班 (杵屋弥三辰社中、田中杉美勢社中、藤間勘菊社中)
「春の海」班 (釣谷雅楽房社中、前川晴笙中、藤間勘寿々社中)
この2班で県内6公演を実施

これまでの見直し状況

施策・課題の状況							
施策	個性的な文化創造社会の形成				評価	B	
課題	表現・鑑賞機会の充実						
	指標	芸術鑑賞推進事業等鑑賞者数			単位	人	
	目標値	現状値					
	平成24年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	13,000	15,525	14,976	12,787	13,081	12,679	

事業費						
(単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
事業費	予算	6,506	5,741	4,521	4,521	4,231
	決算	6,506	5,741	4,371	4,521	4,187
一般	予算	6,506	5,741	4,521	4,521	4,231
財源	決算	6,506	5,741	4,371	4,521	4,187
事業費累計	271,889	277,630	282,001	286,522	290,709	

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	<p>県内の子どもたちにオーケストラによる音楽や古典芸能など優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供をすることにより、豊かな感性と創造性を育むために寄与している。</p> <p>H24鑑賞者数:8,279人(H23:9,199人)</p>
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	<p>本物の芸術に触れる機会の少ない児童、生徒にとって、本事業は優れた舞台芸術に触れる等の貴重な経験のできる場となっており、実施校からは、芸術の素晴らしさを感じ、芸術愛好の心情の醸成につながるとの意見が多い。よって、引き続き、鑑賞や体験の機会を提供していく。</p> <p>ただし、市町の財政状況等により開催希望数は減少しつつあり、今後は市町に積極的に開催希望数が増加するよう働きかけをしていく。</p>

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	いしかわの能楽鑑賞事業費	事業開始年度	H3	事業終了予定年度		作 組 織	文化振興課
		根拠法令		成 職・氏名	主任主事 佐成 美穂		
		・計画等		者 電話番号	076 - 225 - 1372 内線 3847		

事業の背景・目的

定期的に能楽を上演、鑑賞する機会を設けることにより、能楽愛好者の増加と能楽楽師の技術向上の契機とし、もって本県の文化振興を図る。

事業の概要

内 容 「観能の夕べ」上演 能と狂言を各1番
 日 時 平成24年6月30日～8月25日 毎週土曜日
 午後6時30分～午後8時30分
 全9回(特別公演1回、一般公演8回)
 会 場 石川県立能楽堂
 主 催 いしかわの能楽鑑賞事業実行委員会
 対 象 一般
 入場料 特別公演 3,000円/回
 一般公演 1,000円/回

これまでの見直し状況

施策・課題の状況						
施策	伝統文化、伝統工芸など文化資産の継承と発展				評価	B
課題	伝統文化の継承と発展					
指標	音楽堂邦楽ホール入場者数・能楽堂利用者数		単位	人		
目標値	現状値					
平成24年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
109,000	114,107	101,824	116,571	102,617	108,960	

事業費						
(単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
事業費	予算	4,200	4,200	4,200	4,200	3,500
	決算	4,200	4,200	4,200	1,051	3,500
一般	予算	4,200	4,200	4,200	4,200	3,500
財源	決算	4,200	4,200	4,200	1,051	3,500
事業費累計		56,100	60,300	64,500	65,551	69,051

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	「観能の夕べ」は、本県の豊かな古典芸能を代表する加賀宝生による優れた演能を低廉な価格により定期的に鑑賞する機会を県民に提供しているほか、公演回数を確保することにより能楽師の技術向上にも貢献している。 観能の夕べ入場者数 H24:2,259人(H23:2,543人) 能楽堂利用者数 H24:51,138人(H23:48,742人)
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継 続	多くの県民に伝統芸能である能楽を気軽に親しんでもらい、本県能楽界の振興・発展につなげるために重要であることから、今後も「観能の夕べ」の上演を通じ、能楽に触れる機会が少ない県民層を掘り起こし、能楽愛好者の裾野拡大を図っていく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭開催準備費	事業開始年度 H10	事業終了予定年度	作 組 織 文化振興課
	根拠法令 ・計画等		成 職 氏 名 主事 東谷 友里恵 電 話 番 号 076 - 225 - 1372 内線 3848

事業の背景・目的

県民の文化理解の向上を促進するとともに、本県の質の高い文化を県の内外に発信する。これにより、県民が郷土に誇りを持ち、文化活動を通じ、活力ある地域づくりに自発的、積極的に参画する機運を醸成する。

事業の概要

- 1 実施主体 ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭実行委員会、石川県、(財)石川県芸術文化協会
- 2 実施時期 平成25年秋
- 3 会 場 県下一円(県立音楽堂を中心とする公共ホール等)
- 4 事業内容
 - (1) 芸術祭の中心となる音楽公演
 - (2) 本県ゆかりの芸能等公演
 - (3) 芸術文化団体による公演
 - (4) 協賛事業(芸術祭の趣旨に賛同する会期中の市町村、公共ホール自主事業・ただし財政的な支援はなし)
- 5 参加団体数 約40団体
- 6 事業費 負担金2,300千円
(交付先:ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭開催準備委員会)

施策・課題の状況						
施策	伝統文化、伝統工芸など文化資産の継承と発展				評価	B
課題	伝統文化、伝統工芸など文化資産の継承と発展					
	指標	ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭参加団体数		単位	団体	
	目標値	現状値				
	平成25年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	45		43		44	

事業費						
	(単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
事業費	予算	2,300	54,000	2,300	54,000	2,300
	決算	2,300	54,000	2,300	54,000	2,300
一般	予算	2,300	54,000	2,300	54,000	2,300
	決算	2,300	54,000	2,300	54,000	2,300
財源	事業費累計	283,800	286,100	340,100	342,400	396,400

評価	
項目	評価 左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	<p style="font-size: 2em; font-weight: bold; margin: 0;">B</p> <p>平成4年度の国民文化祭、平成7年度のいしかわ秋の芸術祭、平成9年度の文化庁芸術祭石川公演の成果を生かし、隔年ごとに県内各地で音楽公演などを実施することにより地域文化活動の活性化を図り、本県の文化の発展に寄与してきたところである。 また、開催毎に参加団体、事業数ともに増加傾向にあり、本県の芸術文化を県内外に発信する事業として浸透している。</p>
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	<p style="font-size: 2em; font-weight: bold; margin: 0;">継続</p> <p>本県では、2年に1度の総合的な文化芸術イベントとして、広く認知されているほか、本県のようなジャンルの文化芸術団体の育成の場、発表の場として重要性が増していることから、今後も本県文化芸術の素晴らしさをアピールする場として、継続実施していく。</p>

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	音楽堂自主事業費補助金	事業開始年度	H14	事業終了予定年度		作 組 織	文化振興課
		根拠法令 ・計画等				成 職・氏名	主事 競荘介
						者 電話番号	076 - 225 - 1372 内線 3850

事業の背景・目的
 藩政時代から培われてきた邦楽文化と、オーケストラ・アンサンブル金沢に代表される洋楽文化の発信拠点としての音楽堂において、魅力ある多彩な自主事業を実施し、石川の音楽文化の振興を図る。

- 事業の概要**
- 1 音楽堂自主事業基本コンセプト
 - A 優れた演奏家の招聘
 - B 若手・地元芸術家の支援
 - C 音楽ファンの拡大

- 2 事業内容
 - (1) コンサートホール(13事業)
 - ・クリスチャン・ツィメルマン ピアノリサイタル
 - ・レ・ムジジャン・デ・ルーブル グルノーブル
 - ・オーケストラと能「月に憑かれたピエロ」公演
 - ・ランチタイムコンサート 他
 - (2) 邦楽ホール(10事業)
 - ・ワンコイン寄席・音楽堂寄席
 - ・日本の音・日本の声～日本の至芸～
 - ・干支の芸能
 - ・松竹大歌舞伎 他
 - (3) 交流ホール(3事業)
 - ・午後の音楽散歩
 - ・室内楽コンサート
 - ・音楽堂アワー 他

計 26事業

施策・課題の状況						
施策	音楽文化の創造・発信・交流の促進				評価	A
課題	音楽文化の創造・発信					
	指標	音楽堂入場者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成24年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	248,000	244,217	235,219	272,940	238,540	265,158

事業費						
(単位:千円)		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
事業費	予算	37,300	30,700	25,420	21,196	17,817
	決算	37,300	30,700	25,420	21,196	17,817
一般	予算	22,300	15,700	10,420	21,196	17,817
	決算	22,300	15,700	10,420	21,196	17,817
財源	決算	22,300	15,700	10,420	21,196	17,817
事業費累計		473,900	504,600	530,020	551,216	569,033

評価	
項目	評価
	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A 県民が通常鑑賞する機会が少ない世界的な演奏家の招聘やクラシックや邦楽の愛好家の裾野を広げる事業など、魅力ある多彩な公演や音楽文化の普及事業を実施し、入場者が増えた事により、石川の音楽文化の振興及び情報発信に大きな効果があった。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続 石川の音楽文化の振興及び情報発信は文化立県を目指す本県にとって重要であるため、引き続きレベルの高い邦楽・洋楽など、様々なジャンルの県民ニーズに見合う事業を厳選し、創意工夫を凝らしながら、質の高い音楽文化事業を提供していく。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名: 地域文化振興推進事業費補助金	事業開始年度: H2	事業終了予定年度:
	根拠法令 ・計画等	

作 組 織:	文化振興課
成 職・氏名:	主事 競 荘 介
者 電話番号:	076 - 225 - 1372 内線 3850

事業の背景・目的
現代音楽の作曲や県民がオーケストラへの親しみと理解を深める事業、ジュニアオーケストラ及びアンサンブル金沢合唱団の振興育成を図る事業などに補助することにより、本県の音楽文化の普及向上を図る。

- 事業の概要**
- ① 芸術文化創作事業
コンポーザーインレジデンスとして作曲家ウンスック・チンにオーケストラ・アンサンブル金沢のレパトリーとなる現
 - ② 特別文化事業の開催
他のオーケストラとの共演やオペラなどの公演、芸術文化創作事業により作曲された新曲を披露する演奏会を開催する。
・バレエ「白鳥の湖」
日時 平成24年12月14日 会場 県立音楽堂
 - ③ オーケストラ入門コンサートの開催
広く県民に、親しみやすいオーケストラを認識してもらうため、日頃よく耳にする身近な曲を中心にコンサートを開催する。
日時:平成25年2月9日 会場:本多の森ホール
 - ④ オーケストラ実践講習会
県内中学生・高校生やアマチュア音楽指導者を対象にオーケストラ・アンサンブル金沢楽団員等による講習会を開催し、本県の音楽水準の向上と人材の育成を図る。
日時:平成24年8月29日、平成25年3月26日 会場:穴水町立穴水中学校
 - ⑤ ジュニア・オーケストラ育成事業
小学校4年～中学校3年生までの生徒で構成するジュニア・オーケストラの育成を図り、青少年の音楽資質の向上に寄与する。
 - ⑥ オーケストラ・アンサンブル金沢合唱団育成事業
アマチュアの合唱愛好家を募り、その合唱団の育成を図り、音楽文化の普及に寄与する。
 - ⑦ 新人登竜門コンサートの開催
部門:弦楽器 日時:平成24年4月22日 会場:石川県立音楽堂

これまでの見直し状況
※ H17年度に地域文化振興推進事業費補助金と音楽文化普及事業費補助金を統合

施策・課題の状況						
施策	音楽文化の創造・発信・交流の促進				評価	A
課題	音楽文化の創造・発信					
	指標	音楽堂入場者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成24年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	248,000	244,217	235,219	272,940	238,543	265,158

事業費					
(単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
事業費	予算	10,700	10,700	10,700	10,700
	決算	10,700	10,700	10,700	10,700
一般	予算	10,700	10,700	10,700	10,700
	決算	10,700	10,700	10,700	10,700
財源	決算	10,700	10,700	10,700	10,700
事業費累計	261,600	272,300	283,000	293,700	304,400

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">A</p> <p>オーケストラ・アンサンブル金沢を活用したコンサートや実践講習会、ジュニア・オーケストラの育成などの県民参加型の事業を実施することにより、音楽文化の普及や人材育成に大きく寄与した。 オーケストラ実践講習会 H23:講習参加者 318人 H24:講習参加者 340人 ジュニア・オーケストラの育成 H23:団員 65人 H24:団員 69人</p>
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">継続</p> <p>県民がオーケストラへの親しみと理解を深める事業やアンサンブル金沢合唱団等の振興育成を図る事業は、本県の音楽文化の普及向上を図るうえで、大変重要な役割を担っているため、引き続き、各種事業に創意工夫を凝らしながら取り組んでいく。</p>

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 ラ・フォル・ジュルネ金沢開催費	事業開始年度 H20	事業終了予定年度	作 組 織 文化振興課
	根拠法令 ・計画等		成 職・氏名 主事 宮村理恵 者 電話番号 076 - 225 - 1372 内線 3851

事業の背景・目的

フランス発祥のクラシック音楽祭「ラ・フォル・ジュルネ」を、2008年から金沢で開催し、近年では、全国から10万人以上の来場者を集めるなど、石川の音楽文化の発信において着実な成果をあげてきている。
3年後に迫った北陸新幹線金沢開業を見据えながら、今後も、世界的な音楽祭としてのブランド力を活かし、この音楽祭を発展させていく必要があり、5回目となる2012年は、金沢市中心部や加賀・能登地域の拡充など、更なる交流人口の拡大や地域の活性化に貢献する。

- 事業の概要**
- 1 (1) 事業名:ラ・フォル・ジュルネ金沢「熱狂の日」音楽祭2012
 - (2) 開催時期:平成24年4月28日(土)～5月5日(土・祝) 8日間 ※4月上旬よりプレ公演を開催
 - (3) 会 場: 金沢市内(金沢駅周辺、金沢市中心部等)、加賀・能登地区、富山県内、福井県内
 - (4) 主 催:ラ・フォル・ジュルネ金沢音楽祭実行委員会
会長 前田 利祐 (第18代前田家当主)
 - (5) 内 容:オーケストラ公演、合唱、室内楽公演、吹奏楽 ほか
173公演(有料:61公演、無料:112公演)
 - (6) 主な出演者:【国 内】
オーケストラ・アンサンブル金沢、北陸三県をはじめとする全国の演奏団体ほか
【国 外】
ウラル・フィルハーモニー管弦楽団(ロシア)、台北市立交響楽団(台湾)、
イルクーツク五重奏団(ロシア)ほか
 - (7) 入 場 料:500円～3,000円
 - 2 負担金額 13,000千円

施策・課題の状況						
施策	個性を活かした文化と学術の地域づくり				評価	A
課題	音楽文化の創造・発信					
指標	来場者数				単位	人
目標値	現状値					
平成24年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
110,000	83,830	93,178	108,916	118,355	104,771	

事業費					
(単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
事業費	予算	5,000	10,000	10,000	13,000
	決算	5,000	10,000	10,000	13,000
一般	予算	5,000	10,000	10,000	13,000
財源	決算	5,000	10,000	10,000	17,976
事業費累計		5,000	15,000	25,000	38,000
			55,976		

評価	
項目	評価
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	左記の評価の理由 B 一流の演奏を低料金で提供し、0歳から入場できるコンサートを設けるなど、子どもから大人まで幅広く楽しめるクラシック音楽祭として、広く県民に周知され親しまれており、音楽ファンの拡大や石川からの音楽文化の発信だけでなく、交流人口の拡大や地域の賑わいの創出にも寄与している。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続 本音楽祭は、世界的な音楽祭としてのブランド力と、誰もが足を運べる気軽さから、来場者数が10万人を超えるなど、ゴールデンウィークにおけるイベントとして定着しており、本県の音楽文化の県内外への発信や、交流人口の拡大に寄与するところが大きいと、今後も継続開催する。

事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	いしかわミュージックアカデミー開催事業費	事業開始年度	H10	事業終了予定年度		作 組 織	文化振興課
		根拠法令 ・計画等				成 職・氏名	主事 宮村理恵
						者 電話番号	076 - 225 - 1372 内線 3851

事業の背景・目的
国内外の著名な講師による高いレベルのレッスンを行い、世界に通用する若手音楽家の育成と石川の音楽文化の振興を図る。

事業の概要

- 1 事業名 2012いしかわミュージックアカデミー
- 2 期 間 平成24年8月17日(金)～26日(日) 10日間
- 3 会 場 石川県立音楽堂、石川県青少年総合研修センターほか
- 4 主 催 いしかわミュージックアカデミー実行委員会
会 長 石川県知事 谷本正憲
- 5 内 容
 - (1) スクール部門
 - ① マスタークラス:プロを目指す若い音楽家を対象
ヴァイオリン50人、チェロ18人、ピアノ18人
 - ② 基礎クラス:地元で音楽を学ぶ人達を対象
ヴァイオリン5人、ピアノ13人
 - ③ 受講生発表会(マスタークラス)
 - (2) コンサート部門
 - ① ライジングスターコンサート: 過去のIMA音楽賞受賞者などの若手演奏家によるコンサート
 - ② IMA&OEK共演コンサート: IMA講師とOEKメンバーの共演
 - ③ ミニコンサート: 受講生による演奏(病院、学校等)
 - (4) フェローシップ制度
優秀な受講生にIMA音楽賞を授与し、次年度のアカデミーに奨学生として招聘

施策・課題の状況						
施策	音楽文化の創造・発信・交流の促進				評価	A
課題	音楽文化を担う人材の育成					
	指標	いしかわミュージックアカデミー参加者数			単位	人
	目標値	現状値				
	平成24年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	4,700	3,958	3,512	3,938	4,598	4,984
事業費						
	(単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
事業費	予算	20,800	16,700	15,800	15,175	14,420
	決算	20,800	12,300	15,800	15,175	14,420
一般	予算	20,800	16,700	15,800	15,175	14,420
財源	決算	20,800	12,300	15,800	15,175	14,420
事業費累計		345,300	357,600	373,400	388,575	402,995
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	世界的に著名な講師を迎え、レベルの高い個人レッスンを行っており、受講生の中から著名な国際コンクールや国内有数のコンクールに優勝及び上位入賞するなどの実績もあり、本県の音楽文化の発信に大きく寄与している。 また、アカデミー出身者で、世界を舞台に活躍している演奏家を招いてのコンサート開催や、受講生レッスンの一般公開、ミニコンサート開催など、県民が音楽に親しむ機会を幅広く提供している。 鑑賞者数 H24:4,878人、H23:4,493人				
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	若手音楽家の育成事業である本事業では、近年、過去の受講生が講師となって石川に戻ったり、本県で開催されたコンサートに出演するなどの具体的な成果が表れているが、このような本事業の効果をさらに発揮するため、今後も長期的な視野に立ち事業を継続していく。				